壁、間仕切、天井に厚物合板現しで、外断熱の徹底的に簡素化された家

所　在　地：東京都杉並区
設計・総合：DON工房
構　　造：同上
施　　工：彌彦工務店
構造／規模：木造軸組構法／2階建
面　　積：（敷地）64.45㎡
（1階）31.81㎡
（2階）31.81㎡
（延床）63.62㎡
竣　　工：2005年3月

屋根の構成：ガルバリウム鋼板
t0.35瓦棒葺き
アスファルトルーフィング
合板t12
通気層t20
スタイロエースt25
ラーチ合板さね付t24

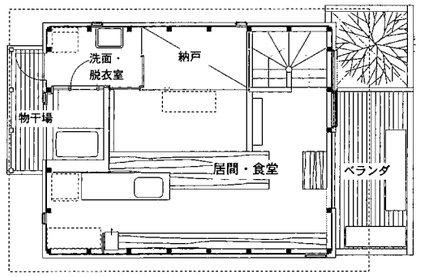
居間・食堂

1階個室より玄関を見る

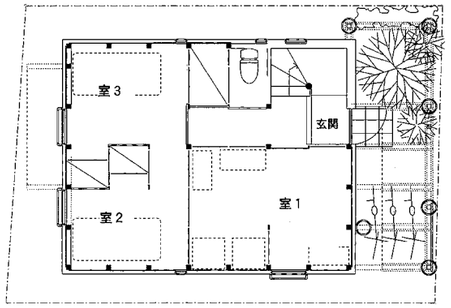
居間よりデッキを見る

建物正面を見る

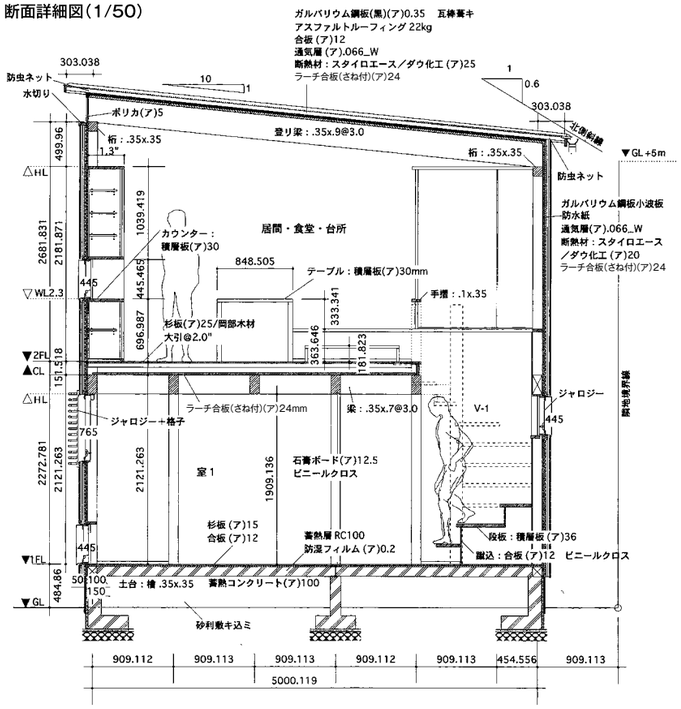
平面図・2階（1/200）



平面図・1階（1/200）



断面詳細図（1/50）



住宅について

20年ほど前、予算900万円でやってみたら50万円オーバーして950万円。24坪の家である。当時、さらなるコストダウンへの挑戦に意欲がわいた覚えがある。

今回もまた950万円しかないということだったが、上限は設けずに極力コストダウンを図るということでスタートした。

初めに合板ありきの設計だった。かつて面材として安価で最大のものは杉の四分板だった。外壁も天井も建具にもこれが使われていた。現代の「四分板」は合板である。しかも1枚で四分板3枚分の大きさがある。これがコストダウンの「元」になる。しかもその強度から構造材としても使え、厚物は屋根では垂木を省き、床では根太を省き、壁では間柱を省いて材料も手間も軽減することが出来る。これら合板のメリットを最大限活用したのがこの住宅である。

屋根、外壁は外断熱にして内部は仕上げなし。間仕切りは厚さ27mmの構造用合板の単品建て込み。全体構成としてこれ以上のコストダウンは不可能だ。壁・天井に仕上げ代がないと配線や配管に苦労する。気になるところは水道用の塩ビ管に線を通すなどしてもっともらしく見せている。屋根には配線していない。

大開口は省エネ目的でペアガラス。1階の床下には砂利を詰めた蓄熱式床暖房を施し、締めて1200万円也。究極のローコストだ。